

札幌会場を皮切りに11月17日（土）の東京と福岡の両会場まで全国9会場で行われました。平成30年度は、品確Ⅰを79名の方、品確Ⅱについては63名の方、合わせて142名の皆様が受験されています。

なお、試験の結果については、12月に開催される資格認定委員会に諮られて合否が決定され、12月中には全建ホームページで発表するとともに各受験者にお知らせします。

「2019年全建手帳」完売のお礼。

2019年版全建手帳は、今年も会員皆様のご意見を反映させ、さらに使いやすくなるよう大きく改定を行ったところですが、おかげをもちまして完売しました。

皆様のご購入、ありがとうございました。

地方自治体での土木職のなり手不足が、新聞でも取り上げられる状況に。このような厳しい状況の中、全建では全国の技術者が連携・交流し、技術水準と社会的地位の向上を目指しています。

東京都内で配られた平成30年11月9日の読売新聞で、「自治体 土木職求む！」と大きな活字の見出しが目に飛び込んできました。見出しはこれだけでなく、「面接のみ・保護者説明会」と活字を少し小さくして並んでいます。サマリーを読むと、「全国の自治体で土木職が10年間で約2万人も減少するなど、なり手不足が深刻な状況。」とあり、「災害復旧など新たなニーズは増しているが、大規模開発の減少や『きつい』といったイメージの広がりがある」とみられる。」と、この原因を分析しています。

記事の本文には、各地の自治体の取組みとして、「技術職は筆記試験なし・専門知識は入庁後の研修で身に付けることができる。」とか「保護者説明会・

休暇はきちんと取れ、家族との時間を持てるなど、子の地元勤務を希望する親心に訴えた。」などと紹介されています。さらに、「土木系の職員は、災害復旧やインフラの維持管理などに欠かせない存在だが、そうした対応ができないという状態にもなっている。」と、常々我々が危惧している点の指摘もなされています。

このように、土木職のなり手不足とそれに伴うインフラの維持管理に支障が出てきつつあることなどが、新聞でも取り上げられるほど厳しい状況にあります。

全建は、このような厳しい環境に対応するためのお役に立ちたいと考えています。ぜひ、全建をご活用ください。

Dr.クマの“健康のヒント”

アルコールとJカーブ



Jカーブ現象という言葉をご存じだろうか。飲酒量と死亡率にはこの現象があるとされている。横軸に飲酒量、縦軸に死亡率を描いたグラフはJの字を描く、つまり飲酒量が少ない人、中くらいの人、大酒家と死亡率をみると、中くらいの人最低で、大酒家が最高になるという現象だ。このことから適切な量のアルコールは寿命を延ばすと言われてきた。ところが、このJカーブ現象は心臓病、脳梗塞、糖尿病にはあてはまるものの、少なければ少ないほどリスクが低い病気もあることがわかっている。高血圧、脳出血、乳がんなどである。おおむね、〇〇は健康に良い、□□に含まれる△△は体に良い作用が

あるので□□をとるべきだ、という話は眉に唾して聞く方が良い。確かに飲酒量一日約20gで死亡率が最低になるJカーブ現象が見られるが、これはある意味、多数の様々な人達のデータをまとめたためにそのように見えてしまうマジックのようなものかもしれない。私自身、由緒正しい飲んべの家系で育った飲んべえだからよくわかるが、酒飲みは理由をつけて飲みたがるものである。しかし、Jカーブは酒を飲む理由にならない。なにより適量の20gはたったビール中瓶一本、日本酒なら一合、ウイスキーダブル1杯である。こんな量なら飲まない方がましかも。

(北里大学 医学部 教授 熊谷 雄治)